

**授業概要**

双子・分身・多重人格にかかわる文学研究 — 分身というテーマの文化的背景に迫る。

英米のゴシック小説の傑作を「読み」分析し、その映画も併せて議論してゆく。また原作の映画化作品も活用し「読む」という行為を拡大し、分身というテーマの意味を考察する。

**授業計画**

第1回	文学とは何か — 小説の誕生
第2回	双子・分身・多重人格の文化史 — なぜ人間は分身を求めるのか
第3回	エドガー・アラン・ポー論 — 『推理作家ポー』における作家イメージ
第4回	ポーの「ウィリアム・ウィルソン」論 — 古典的分身物語
第5回	ポーの「モルグ街の殺人」論 — 推理小説の誕生・奴隷制度・分身
第6回	ハーマン・メルヴィル『白鯨』論 — モビィ・ディックとエイハブ船長
第7回	オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』論 — 世紀末文化と分身論
第8回	R・L・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』論 — 無意識・フロイト・分身
第9回	推理小説の文化史（1） — ホームズ・シリーズにおけるモリアーティとホームズ
第10回	推理小説の文化史（2） — 映像のなかのシャーロック・ホームズ
第11回	H・P・ラヴクラフト「アウトサイダー」論 — 自分とは何か
第12回	スティーヴン・キング『ダーク・ハーフ』論 — バストセラー作家と分身
第13回	スティーヴン・キング『It』論 — 自己のトラウマとの対決
第14回	ダニエル・キイス『24人のピリー・ミリガン』論 — 多重人格とノンフィクション
第15回	映画における分身物語 — 分身というテーマの進化論
第16回	定期試験

**到達目標**

分身というテーマを考察することで、文化的歴史的背景を理解すると共に、自己という存在についても追及する。また、多くの小説の名場面に触れることで、活字の世界への関心がわき、国語力のアップにもなることを目指す。

**履修上の注意**

言うまでもなく授業中の私語、睡眠は許されない。マナーを尊重して楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。

**予習・復習**

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

**評価方法**

学期末試験（60%）、提出物およびコメントペーパー（40%）などの総合評価。

**テキスト**

西山智則『エドガー・アラン・ポーとテロリズム—恐怖の文学の系譜』（彩流社） プリントなどの配布資料 また参考文献については適宜指定する。